

創業支援施設「J-Create⁺」を開設

当金庫では、地域経済の活性化と雇用の創出に寄与するため、平成 30 年 4 月に、蓮沼支店（東京都大田区）内に 24 時間利用可能な創業支援施設「J-Create⁺（ジェイクリエイト プラス）」をオープンする予定であり、平成 30 年 3 月 16 日（金）、松原大田区長をお招きしてお披露目式を開催しました。



本施設は、「未来を創造するビジネスを、社会にもっと+（プラス）する」をコンセプトに、より早い段階から創業者に真に寄り添うことで、新たな価値を創り出す場であり、金融機関では唯一、東京都の「平成29年度インキュベーション施設運営計画」の認定を受けております。

また、人的支援として、「hands-on-style（伴走型支援）」を謳い、専属のマネージャーや「城南なんでも相談プラザ」の専門家が連携しながら、創業者を支援してまいります。



施設の概要や入居者募集等、詳しくは当金庫ホームページをご覧ください。

当金庫ホームページはこちら

「江戸～三河・尾張ものづくり商談会」を開催

平成 30 年 2 月 21 日（水）、岡崎信用金庫名古屋支店を会場に、「江戸～三河・尾張ものづくり商談会」を開催しました。自動車産業を中心とした優良なものづくり企業が集積している「中京工業地帯」と、当金庫の営業エリアである「京浜工業地帯を中心とする地域」の“ものづくり企業”の商談・交流を図るべく、当金庫のお取引先企業 25 社と岡崎信用金庫のお取引先企業 50 社のほか、大手バイヤー 2 社にご参加いただき、全部で 337 件の商談が行われました。

参加された方からは「同業者の全国的なネットワークを紹介していただくなど大変有意義な時間を過ごせました」「大田区の素晴らしい技術力を拝見し、刺激になりました」といった感想をいただきました。



城南信用金庫の経営内容について（平成30年2月末）

1. 預金と貸出金について

| | 29年3月末 | 30年2月末 | 増加額（増加率） |
|-----------|-----------|-----------|-------------|
| 預 金 残 高 | 3兆5,787億円 | 3兆6,466億円 | 679億円（1.8%） |
| 個人預金残高 | 3兆891億円 | 3兆1,318億円 | 426億円（1.3%） |
| 貸 出 金 残 高 | 2兆1,479億円 | 2兆1,916億円 | 437億円（2.0%） |

※預金残高には、譲渡性預金（29年3月末：56億円、30年2月末：48億円）を含んでいます。

2. 不良債権について

当金庫では、「自己査定に基づく分類貸出金」「金融再生法で定められた債権区分」「信用金庫法で定められたリスク管理債権」の3つの基準で不良債権を開示しています。

①自己査定に基づく分類貸出金

●債務者区分別貸出先数・貸出金残高

（金額単位：億円）

| | | 先 数 | 金 額（構成比） |
|--------------------------------------|---|--------|----------------|
| 正 常 先 | 業況が良好で、財務内容にも問題のない先 | 47,351 | 16,437（75.0%） |
| 要 注 意 先 | 今後の管理に注意を要する先 | 5,752 | 4,960（22.6%） |
| 内 訳 | A 貸出条件緩和債権がなく、かつ期限経過・延滞が1ヵ月未満の先 | 5,710 | 4,868（22.2%） |
| | B 貸出条件緩和債権があり、かつ期限経過・延滞が1ヵ月未満の先 | 32 | 47（0.2%） |
| | C 期限経過・延滞が1ヵ月以上3ヵ月未満の先、ならびに要管理先のうち、無保全額が多額で、将来においてリスクの発生する可能性が高く、個別に引当を行うことが望ましい先 | 10 | 43（0.2%） |
| 破綻懸念先 | 事業は継続しているものの、今後、経営破綻に陥る可能性がある先 | 1,191 | 435（2.0%） |
| | 経営改善支援のため積極的に融資を行っている先 | 131 | 105 |
| 実質破綻先 | 実質的に経営破綻の状況に陥っている先 | 277 | 67（0.3%） |
| 破 綻 先 | 法的・形式的に経営破綻の事実が発生している先 | 74 | 12（0.1%） |
| 国・地方公共団体（回収について危険性がなく、債務者区分を行っていません） | | 1 | 4（0.0%） |
| 合 計 | | 54,646 | 21,917（100.0%） |

●分類貸出金

（金額単位：億円）

| | | 金 額（構成比） | 償却・引当 予 定 額 | 償却・引当後 無保全額（見込み） |
|-------|-------------------|----------------|----------------|---------------------|
| I分類 | 回収について問題のない貸出金 | 17,890（81.6%） | — | — |
| II分類 | 回収について注意を要する貸出金 | 4,021（18.3%） | — | — |
| III分類 | 回収について重大な懸念がある貸出金 | 3（0.0%） | 3 | 0 |
| IV分類 | 回収不能と判定される貸出金 | 2（0.0%） | 2 | 0 |
| 合 計 | | 21,917（100.0%） | 5 | 0 |

※単位未満のみ小数第1位まで表示しています。

・III分類、IV分類の貸出金については、回収に取り組んでまいりますが、年度末までに回収ができない場合は、その100%を償却・引当処理する方針です。

②金融再生法で定められた債権区分

（金額単位：億円）

| | 金 額（構成比） | うち 無保全額 | 償却・引当 予 定 額 | 償却・引当後 無保全額（見込み） |
|-------------------|----------------|------------|----------------|---------------------|
| 正常債権 | 21,359（97.4%） | — | — | — |
| 要管理債権 | 52（0.2%） | — | — | — |
| 危険債権 | 436（2.0%） | 2 | 2 | 0 |
| 破産更生債権及びこれらに準ずる債権 | 80（0.4%） | 3 | 3 | 0 |
| 合 計 | 21,927（100.0%） | 5 | 5 | 0 |

※「金額（構成比）」は、単位未満を四捨五入しています。

※単位未満のみ小数第1位まで表示しています。

・「危険債権」「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」の無保全額については、回収に取り組んでまいりますが、年度末までに回収ができない場合は、その100%を償却・引当処理する方針です。

③信用金庫法で定められたリスク管理債権

(金額単位：億円)

| | 金額 |
|-----------------------------|-----|
| リスク管理債権総額 (A) | 274 |
| 破綻先債権額 | 12 |
| 延滞債権額 | 86 |
| 3ヵ月以上延滞債権額 | — |
| 貸出条件緩和債権額 | 176 |
| うち担保・保証付き債権額(B) | 244 |
| リスク管理債権(C)=(A)-(B) | 29 |
| 貸倒引当金残高(D) | 38 |
| 貸倒引当金控除後のリスク管理債権(E)=(C)-(D) | △ 8 |

- 担保・保証控除後の「リスク管理債権」、いわゆる無保全部分は 29 億円となっていますが、回収に鋭意取り組んでまいります。
- 今年度に入って発生した不良債権に対する引当分等や、回収された引当金を加味すると、貸倒引当金残高はリスク管理債権 (C) を 8 億円上回る 38 億円となる見込みであり、高い健全性を示していると言えます。

3. 有価証券の状況

●売買目的有価証券、満期保有目的の債券

該当ありません。

●その他有価証券で時価のあるもの

(金額単位：百万円)

| | 帳簿価額 | 時 価 | 評価差額 | 過年度処理済額 | 今年度増減額 |
|--------|---------|---------|-------|---------|--------|
| 株 式 | 87 | 244 | 156 | 118 | 38 |
| 債券・その他 | 384,237 | 387,713 | 3,475 | 4,280 | △804 |
| 合 計 | 384,325 | 387,957 | 3,632 | 4,398 | △765 |

※評価差額の過年度処理済額は、税効果相当額を控除し、純資産の部にて処理が済んでいます。

●時価を把握することが困難な有価証券

その他有価証券（非上場株式） 225 百万円
 子会社・子法人等株式 30 百万円

4. 自己資本比率（平成 29 年 9 月末実績）

平成 29 年 9 月末の当金庫自己資本比率は 9.90% となり、国内基準である 4% の 2 倍以上であり、当金庫の経営の健全性がわかりいただけると思います。

| | |
|-------------------------------------|---------------|
| 自己資本の額（コア資本に係る基礎項目の額-コア資本に係る調整項目の額） | |
| 1,836 億円 | |
| 自己資本比率 = | × 100 = 9.90% |
| 1兆8,530 億円 | |
| 信用リスク・アセット+オペレーショナルリスク | |

(注) 各計数は、単位未満を切り捨てて表示していますので、合計が一致しない場合があります。

地域のビジネス支援事業の後援・協賛

当金庫では、地域で行われるビジネスコンテスト等において「よい仕事おこし賞」を設けるなど、ビジネス支援事業の後援・協賛に積極的に取り組んでいます。今年度においても、下記のビジネスコンテスト等の後援・協賛を行いました。



| 名 称 | 主 催 |
|-------------------------------|-----------------------|
| ビジネス創造コンテスト | 品川区、(一財)品川ビジネスクラブ |
| 大田区ビジネスプランコンテスト | 大田区、(公財)大田区産業振興協会 |
| 「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞 | 人を大切にする経営学会 |
| ウーマンズビジネスグランプリ in 品川 | 品川区、品川区立武蔵小山創業支援センター他 |
| かわさき起業家オーディション ビジネス・アイデアシーズ市場 | 川崎市、(公財)川崎市産業振興財団 |
| 横浜ウーマンビジネスフェスタ | (公財)横浜市男女共同参画推進協会 |
| 革新ビジネスアワード | フジサンケイビジネスアイ他 |
| テックプランター | (株)リバネス |
| 横浜ビジネスグランプリ | (公財)横浜企業経営支援財団 |

スタンバイ信用状の発行による 海外での資金調達支援を実施

当金庫は、信金中央金庫と連携したスタンバイ信用状の発行により、お客様の海外での資金調達支援を行いました。本件は、当金庫お取引先である株式会社ヤシマ様（東京都大田区、箕浦裕代表取締役）のタイ現地法人が、バンコック銀行から現地通貨（タイバーツ）建ての借入を行うにあたり、当金庫より信金中央金庫を介して信用状を発行したものです。当金庫初の海外ファイナンスとして同社タイ現地子会社の資金調達を支援したもので、平成 30 年 2 月 23 日(金)に行われたバンコック銀行と同社タイ現地法人による契約書締結に当金庫役職員が同席しました。



当金庫では、平成 25 年 6 月に設置した海外事業支援室を中心に、多様化するお客様の海外展開に関するニーズにお応えするため、今後もさまざまな取組みを展開してまいります。